

共同宣言

私たち、棚田に生き、棚田を守る者は、長野県上田市で開催された「第29回全国棚田サミット」において、「カカワレル棚田『ずく』を集めて未来につなぐ」をテーマに、棚田が持つ多面的機能の発揮、持続的な保全等について事例を共有し、議論を行いました。

棚田は、先人たちが厳しい自然条件の中で努力を重ね、豊かな農村文化を築き上げてきた貴重な農業資産です。棚田がもたらす恵みは、食料生産のみならず、美しい景観や教育・研究の場の提供、生物多様性、国土の保全など、私たちが生きるうえでのあらゆる面にわたります。

しかし、人口減や有害鳥獣の被害、耕作放棄地の増加等により、棚田を含む中山間地域が荒廃の危機に直面しており、私たちは今こそ”ずく”（やる気・根気）を出し、多くの関係者のカカワリと共にこの困難に立ち向かい、次世代へ棚田がもたらす恵みをつないでいかなければなりません。

棚田地域振興法の成立から5年が経ち、法に基づく地域指定・計画認定、「つなぐ棚田遺産」の選定など国があらゆる角度から棚田の支援策を展開しています。国の支援と全国各地の棚田保全活動により、棚田の多面的機能や魅力を広く発信することで、国民共有の財産といえる棚田の保全機運がより一層高まる事を期待して、次のことを宣言します。

- 一 我々は、持続的な棚田保全活動に取り組みます。地域の棚田を未来へつなぐため、地域の住民や企業等と連携し、豊かな自然環境と水資源を守り、棚田の美しい景観と文化を後世に伝えていきます。
- 一 我々は、都市と農村の交流を促進します。農作業体験や観光を通じて、多くの人々が棚田と関わりを持ち、地域の活性化につながる新たな機会を創出します。
- 一 我々は、次世代に引き継ぐ交流や学びの場を提供します。棚田が育む伝統文化や生きものを大切に保全し、教育機関と連携し、子どもたちに棚田が持つ多面的機能を伝え、発信し、様々な立場の人々が棚田の保全活動に積極的にカカワレルように努めます。

令和6年10月17日

第29回全国棚田（千枚田）サミット 参加者一同